



「溪流の秋」

11月中旬、午前11時頃の御岳渓谷です。溪流は日陰の所と山の上から差し込む光で照らされた所とにくっきりと分かれています。

この風景を見て是非絵にしたいと思ったのは川の中の大きな岩とその間を白く光る泡を立てながら駆け下る水の流れでした。点在する大きな岩は過去の大水の凄まじさを、流れは川が急であることを教えてくれます。水の泡立ちは川底の段差に水が落ち込む際に出ているようです。右の山際で淀む川面の濃紺は、絵に変化を与えてくる嬉しい部分です。

少しこの御岳渓谷の紹介をします。所は東京都青梅市御岳、多摩川の上流部です。旧く江戸時代、この溪流沿いの青梅街道は“甲州裏街道”とも称され、宿駅として栄えました。昭和の初め（1932年）東京の飲料水ダムをこの上流に計画し1957年に完成したのが小河内ダムで、現在の溪流観光の水量調節にも大きく関わっているようです。なお、この地の観光は高度経済成長期以降に特に進んだと言われています。最近、溪流でカヌーやラフティング、岩場でボルダリングを楽しむ若者が見られます。この絵の中にもボルダリングに挑む人が見られます。

ところで絵の上流はどちらとされますか。流れは“高さから低き”だから“左の奥から手前の下!?”。実は“手前から奥”です。蛇足の説明になりましたが。



菊岡 保人

Size : 530×455mm (F10)